

MESA/BOOGIE[®]

SUBWAY[®] D-800[™]

取扱説明書

Greetings from the Home of Tone®

MESA/BOOGIEのアンプを選択されたあなたは、とても賢明なプレーヤーであり、且つ、直感力に優れた方です。それと同時に、アンプメーカーとしての我々に、絶大なる信頼を抱いているということですね。我々は、その期待を重く受け止めています。このアンプを選択して購入されたということは、このアンプがあなたの音楽を表現する体の一部になったという事であり、同時に、あなたはMESAファミリーの一員になったのです。ようこそ！

我々の目指すゴールは、決してあなたを幻滅させる事はありません。偉大なアンプのオーナーになった今、MESAの先人達が築き上げてきた様々な真空管アンプの伝統、そしてその上に新たに積み上げられた技術の全てを、あなたは享受できるのです。これから、このアンプがあなたの音楽制作を触発し、多くの喜びを与えてくれる事は間違いありません。それは、これまで培ってきたあなたの奥底に眠る音楽に対する意欲や情熱を導き出す事であり、我々はその手助けが出来ればと願っています。・・・私達の新たなる友へ捧げます。

SUBWAY® D-800™

目次

使用上の注意	
概要	1 - 2
役立つヒント	2

フロントパネル

INSTRUMENT INPUT(楽器用インプット)	3
MUTE (ミュートスイッチ)	3
ACTIVE/PASSIVE (アクティブ/パッシブ)スイッチ	3
DEEP(ディープ)スイッチ	3
INTERNAL HIGH PASS FILTER(内部ハイパスフィルター)	3
INPUT CONTROL(インプットコントロール)& O/D LED	3
VOICING(ボイシング)コントロール	4
BASS(ベース)/LOW MID(ローミッド)/HIGH MID(ハイミッド)/ TREBLE(トレブル)コントロール	4
MASTER(マスター)ボリュームコントロール	4
POWER(パワー)/PROTECT(プロテクト)/LIMIT(リミット)LED	4 - 5

リアパネル

POWER(電源)スイッチ	5
電源コネクタ	5
SPEAKER(スピーカー)アウトプット	5
HEADPHONE(ヘッドホン)アウトプット	6
AUXインプット	6
DIRECT OUT(ダイレクトアウト)セクション	6 - 7
トラブルシューティング	8 - 9
サンプルセッティング	10
仕様	11

使用上のご注意

この説明書を読んで下さい。

この説明書をなくさない様に保管して下さい。

注意事項を必ず読んでからお使い下さい。

安全事項にも従って下さい。

水の近くで当製品を使用しないで下さい。

汚れた時は乾いた布で拭いて下さい。

換気口を塞がないで下さい。説明書に従って設置して下さい。

暖房機器や、他のアンプなど、熱を発生する機器の近くに置かないで下さい。無理やり、形の違うコンセントに挿さないで下さい。有極プラグは片方のブレードが幅広くなっています。アース付プラグは2つのブレードの他にアース端子も付いています。アースは安全の為のものです。自宅のコンセントに差し込めなかった場合、電力会社に相談して下さい。

電源ケーブルを踏んだり、曲げたりしないで下さい。

落雷の恐れがある時や、長時間使用しない時は電源ケーブルを外して下さい。

修理が必要な時は専門家に依頼して下さい。ケーブルがダメージを受けたり、本体が傷ついたり、濡れたり、落として壊れたりした場合、修理に出して下さい。

換気の為に本体の後ろに必ず10センチ程度のスペースを空けて下さい。換気口の上に新聞、テーブルクロスやカーテン、といった物を置かないで下さい。

ロウソクや火が付くような物を本体の近くに置かないで下さい。

濡れている物も本体の近くに置かないようにして下さい。

注意：安全のため、本体を雨や湿気に晒さないで下さい。

なるべくコンセントの近くに設置して下さい。

注意：必ず適切な接続をしてからアンプを操作して下さい。そうしないとアンプが故障する可能性があります。

直射日光や高い湿度は避けるようにして下さい。

必ずアースを接続して下さい。

解体したり、ヒューズやチューブを交換したりする前に必ず電源ケーブルをコンセントから外して下さい。ヒューズを入れ替える時は、必ず同じタイプのヒューズを使って下さい。

動作中にチューブに直接触れないで下さい。

子供に触らせないで下さい。

故障を避けるため、ケーブルなどを接続する前に電源を切って下さい。

汚れを取るのに溶剤を使用しないで下さい。

必ず本体の裏に表示されている条件を満たすAC電源を使用して下さい。輸出モデルは各国の電圧に合わせてあります。お住まいの規定に従って電源に接続して下さい。

大きな音が出ますので、スピーカーに耳を近づけないで下さい。

Mesa/Boogieアンプはプロスベック用の機材ですので、規定に従って扱って下さい。

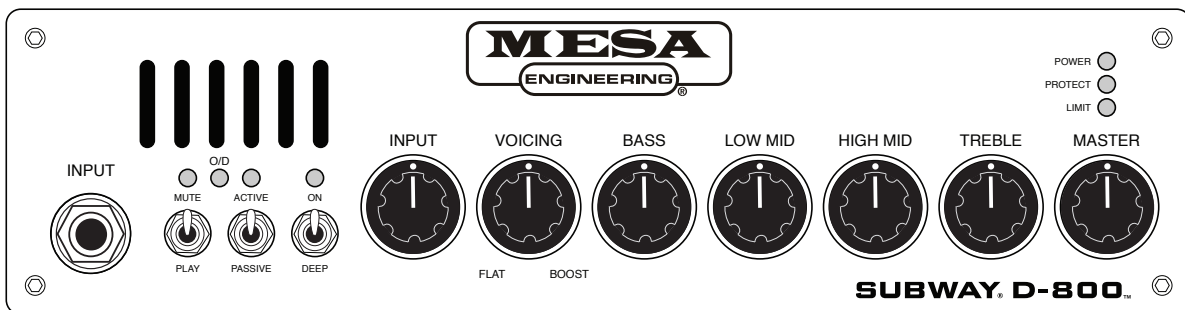
上記の取り扱い注意事項と安全管理事項を必ず読んで下さい!

SUBWAY® D-800™

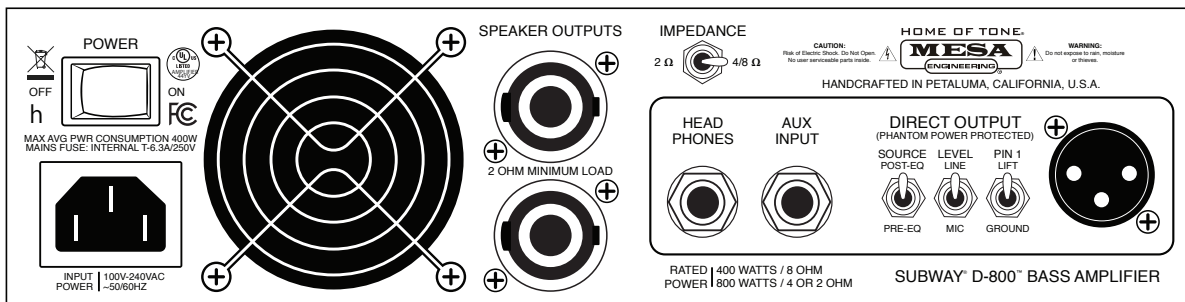
概要

この度は、SUBWAY D-800™をお買い求めいただきありがとうございます。D-800™は今までいくつもの優れたアンプが生み出された中でも集大成と呼ぶべきモデルです。その元祖はこれまで開発した中でも一番最初の"MESA 450 Bass Head"にさかのぼります。MESA/Boogieの最初の5種類のベースアンプはラグニタス山の掘っ立て小屋の中で生まれました。私達は常にベースアンプに愛情を注ぎ、素晴らしい商品を発表出来るように取り組んできました。ベースアンプの血脈は、1980年、最初のラックマウントタイプのベースアンプである"D-180"へ引き継がれ、80年代中盤には"BASS400"が登場し、1988年後半に、6L6管を6管加えてトータル12管をパワーセクションに持った、素晴らしいピッチとパンチ、そしてパワーを兼ね備えた"BASS400+"が登場します。"400+"は20年に渡って世界中の才能のあるベーシスト達によって最高傑作となりました。ポール・マッカートニー、マーク・キング、スタンリー・クラーク、ジャック・ブレイズ、マイケル・アンソニー、ブラスコそしてブーツィー・コリンズといった面々、そして他にも世界的なスター達が"400+"をセンターステージに設置し、20年に及ぶ期間、バンドを支えてきました。これらの象徴的なアンプは中古市場においても今だに高値で取引がされており、それによってベースアンプ市場での位置を確立しました。オールチューブアンプ・MOSFETアンプのパイオニアでありつつ、長い時と経験を経て、我々は従来からの伝統的なトーンを残したまま、完全に新しいアプローチでベースアンプを作ることとなりました。トーン・フリークに朗報です！SUBWAY D-800™は、MESA/Boogieのベースアンプの血脈を受け継ぐ次のステップとなるものです。あふれ出るパワーを持ったトーンはコンパクトかつ軽量の筐体に封じ込められており、コントロール性の高いその機能とサウンドは、次世代ベースアンプへの第一歩となります。そのSUBWAY D-800™は、アメリカはカリフォルニア州のペタルマでハンドメイドにて生産されています。

フロントパネル SUBWAY® D-800™



リアパネル SUBWAY® D-800™



概要：フロントパネル

フロントパネルのインプットセクションにはINPUTジャック、MUTEスイッチとACTIVE/PASSIVEスイッチが装備されています。INPUTジャックでは、ハイ・インピーダンスのJ-FETインプットアンプが、スイッチング回路をハイ・インピーダンスのシグナルパスから切り離します。MUTEスイッチは、INPUTジャックからSPEAKERアウト、HEADPHONEアウトまたD.I.アウトへの信号をミュートし、サイレント・チューニングを可能にします。またLEDは、切替可能な機能全てに装備されています。

プリアンプセクションには、不必要なサブソニック信号をブロックする精密な4ポール・ハイパスフィルターを装備しており、J-FETの可変ゲインステージは、詳細に設定されたアンチ・サチュレーション・テクノロジーで瞬間的な信号の突き出しを防ぎつつ即座に修正を行うので、激しくドライブしたときはより真空管らしいフィーリングが得られます。O/D(オーバードライブ/オーバーロード)LEDは、プリアンプがオーバードライブした際に一目で分かるように装備されています。

トーン・シェイピングについては、全ての周波数範囲がカバーされたVOICINGコントロールのノブを回すだけで、アンプのレスポンスをフラットなカーブから、よりヴィンテージなカーブに変化させることができます。また信号は、Low(シェルビングバンド)、2つのMIDRANGE(ピーク/ディップバンド)、そしてHIGH(シェルビングバンド)からなる4バンドのEQセクションに送られます。最初にまずVOICINGコントロールを使って好みの音色に近付け、それから4バンドEQでトーンを整えていくと良いでしょう。

MASTERボリュームコントロールは、EQセクションを通過した後の全体の音量を設定するものです。INPUTゲインとMASTERボリュームを組み合わせ、かつお使いのベースから出る信号の強度(演奏のスタイルやタッチも影響します)によって、煌めくようなクリーンから適度なオーバードライブサウンドまで、幅広いトーンキャラクターを形成することが出来ます。

概要：リアパネル

本機のリアパネルを左側からみるとまず電源スイッチと電源コネクタが配置されています。尚、付属の電源コード以外のご使用はアンプや接続機器にダメージを与えることがあります。またその際の保証は行いません。

次に、NL-4スピコン・コネクタが設置されていますが、ターミナル"1+"とアンプ側プラス、ターミナル"1-"とアンプ側マイナスが接続されており、2つのコネクタはパラレル(並列)となっています。

本機はHEADPHONEアウトを装備しており、8~32Ω仕様のヘッドホンまたはイヤホンが使用可能です。大きすぎる音量は(特に長い時間使用する場合)耳にダメージを与える恐れがありますのでご注意ください。

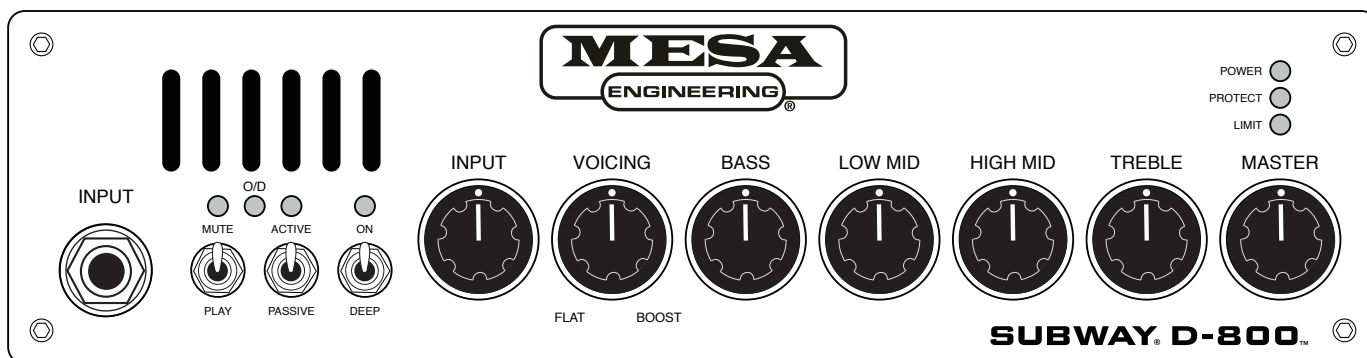
HEADPHONEアウトの横にはAUXインプットが装備されており、このTRSジャックにはMP3プレイヤーやその他電子機器からの左右チャンネルの信号を入力可能です。信号の接続ポイントはMASTERボリュームの前となりますので、ベースの音量と再生機器の音量のバランスはプレイヤーのボリュームコントロールで調整します。

本機を市場の他のモデルと差別化するポイントは、スタジオ・グレードのXLRバランスアウトを装備しているところです。プリ/ポストEQの選択とアウトプットレベル(MIC/LINE)の選択が可能で、またグラウンドリフトスイッチ(1番ピンリフト)が併せて装備され、ファンタムパワー・プロテクションや高周波ノイズ対策、グラウンドループ対策が施されています。

簡単なヒント：

本機は、優れたサウンドが得るのが容易なアンプです...まさに、“プラグ & プレイ”。演奏を開始する際は、MUTEスイッチを下側(MUTEオフ)、ACTIVE/PASSIVEスイッチを下側(PASSIVE)、INPUTゲインとVOICINGを反時計回り一杯に回しきり、四つのEQコントロールはフラット(12時位置)、そしてMASTERボリュームを1時の位置に設定します。それからベースを接続し、INPUTゲインをお好みの音量になるまで上げます。VOICINGを好みの音が得られるまで回すと、基本となるアンプのサウンドが作り上げられます。更に回すとローエンドはブースト、ミッドはカットされ(カットされる周波数は変化します)、トレブルが若干ブーストされます。その後EQでトーンの味付けをします。

フロントパネル (コントロールと機能)



INPUT (インプット) :

このジャックに楽器(ベース)の出力を接続します(本機のJ-FETバッファアンプの第一段に信号が送られます)。バッファアンプの入力感度は、ACTIVE/PASSIVEスイッチで切替可能で、ACTIVEポジションではPASSIVEポジションよりも約10dBほど感度が低く(ゲインが低く)なります。

MUTE (ミュート) スイッチ :

このスイッチをONにすると、上部の赤色LEDが点灯し、DIRECTアウト/HEADPHONEアウト/SPEAKERアウトに送られるオーディオ信号がミュートされます。また、他のコントロールを操作しなくても、このスイッチを使うことによって、アンプをスタンバイモードにすることが出来ます。

ACTIVE/PASSIVE (アクティブ/パッシブ) スイッチ :

このスイッチを切り替える事によって、J-FETインプットバッファの感度を変更することが出来ます。大抵の場合、アクティブタイプのベースの出力はパッシブタイプのベースよりも10dBほど信号レベルが高くなっています。O/DのLEDが点灯しないようにローエンド付近でゲインをコントロールするときは、このスイッチを上側(ACTIVE側)に設定すると、上部の青色LEDが点灯して入力感度が10dBほど下がり、高出力のアクティブベースを使用する際もオーバーロードなく音色調整が出来ます。

DEEP (ディープ) スイッチ :

このスイッチ(上部の青色LEDと連動)はDEEP(ディープ)フィルターが作動し、超低域が若干ブーストされ、ハイパスフィルターがかかる周波数帯が下がります。このコンビネーションの効果として、ボトムエンドのレスポンスがより丸く分厚くなります。小さな(コンパクトなスタイルの)スピーカーキャビネットを使用する場合は、音量設定が高過ぎる場合にダメージを与える恐れがありますので注意して下さい。

内部ハイパスフィルター :

外感上にスイッチやコントロールがあるわけではありませんが、重要な内部機能で、特にアンプがハイ・ドライブ状態においてローエンドをコントロールします。この自動調整式のフィルターは遷移周波数を持ち、30Hz付近で最大(カット)となります。HPF(ハイパスフィルター)がプロオーディオの業界においては長年標準である一方、ベースアンプでこの機能はここ数年は一部のモデルで見られるのみとなっています。またこのフィルターは機械的保護の意味合いで、スピーカーキャビネットのドライバーの再生可能帯域外の音域に対してパワーを制限する事に匹敵する機能も持ち合わせます。これは、特にコンパクトなスピーカーキャビネットを使用する場合に有用で、スピーカーの寿命を縮めてしまう基本的原因の一つを予防できます。

INPUT (インプット) コントロール (ゲイン) & O/D (オーバードライブ) LED :

INPUTコントロールは、最初のゲインステージの入力レベルを設定するもので、以降のステージはこの設定に影響を受けます。入力ゲインをオーバードライブさせると、あなたの演奏スタイルに合ったトーンキャラクターが得られる場合もあります。アンバー(黄)色のO/D LEDは、ドライブ信号の音量レベルと、プリアンプがどれぐらいオーバードライブしているのかを視認する事ができます。強くオーバードライブさせているときは、TREBLEのEQを少し下げてサウンドのとげとげしさを減らしたり、BASSのEQを下げてサウンドに輪郭とインパクトを与えたりすると良いでしょう。

VOICING (ボイシング) コントロール:

アンプのレスポンスをフラットなカーブからよりヴィンテージなカーブに変化させることができるアクティブEQコントロールです。コントロールを時計回りに回すと、ローエンドとハイエンドがブーストされ、ミッドレンジ(中域)がカットされます。このヴィンテージなポジションは、一般的にオールドスクールなフランクやスラップトーン。また丸いボトムと少し迫力を加えたロックのトーンに使用されます。

BASS (ベース) コントロール:

BASSコントロールは信号内の低域の量を調整するシェルビングタイプのアクティブコントロールで、ブーストとカットを行います。ブーストの量はフラット位置(12時位置)から時計回りに、カットの量はフラット位置から反時計回りに機能します。低域(80Hz以下)は、トーンのボトムと丸み、そしてフィーリングを担っています。一般的に、EQは少しの調整が大きくサウンドを変化させるので、必要な分だけ動かしたら、あとは何もしないようにします。もしとてもコンパクトなスピーカーキャビネットで大音量が必要な場合は、ベースをブーストさせることでスピーカーをオーバードライブさせることが可能です。もしそれでもローエンドが十分でない場合は、単に必要な機材が足りないだけですので、スピーカーを増やして下さい。

LOW MID (ローミッド=低中域) コントロール:

LOW MIDコントロールは、信号内の低中域の量を調整するピーク・ディップ(またはベル)スタイルのアクティブコントロールで、ブーストとカットを行います。ブーストの量はフラット位置(12時位置)から時計回りに、カットの量はフラット位置から反時計回りに機能します。低中域(センター周波数が200Hz)は、"アーシー"または"ウッディー"なトーンキャラクターを担っています。

HIGH MID (ハイミッド=高中域) コントロール:

HIGH MIDコントロールは、信号内の高中域の量を調整するピーク・ディップ(またはベル)スタイルのアクティブコントロールで、ブーストとカットを行います。ブーストの量はフラット位置(12時位置)から時計回りに、カットの量はフラット位置から反時計回りに機能します。高中域(センター周波数が480Hz)は、籠ったようなトーンキャラクターを担っています。

TREBLE (トレブル=高域) コントロール:

TREBLEコントロールは信号内の高域の量を調整するシェルビングタイプのアクティブコントロールで、ブーストとカットを行います。ブーストの量はフラット位置(12時位置)から時計回りに、カットの量はフラット位置から反時計回りに機能します。高域(2.5kHz以上)は、ブライトでキラキラしたトーンキャラクターを担っています。

MASTER (マスター) ボリュームコントロール:

MASTERコントロールは、パワーアンプに送られる信号レベルを調整します。またINPUTコントロールと併せて使用し、演奏ボリュームとゲインとフロントエンドのドライブを調整します。例えば、オーバードライブしたトーンを得るために入力ゲインを高めに設定する場合は、適正な演奏ボリュームを得るためとパワーアンプがオーバードライブし過ぎるのを防ぐためにMASTERボリュームを低めに調整する必要があります。同じように、もし非常にクリーンなサウンドを求めている場合は、INPUTコントロールを低めに設定して、MASTERボリュームコントロールを高めに設定すれば、必要な演奏ボリュームが得られます。

POWER LED (パワーLED):

このLEDが点灯しているときは、正常に動作していることを示します。もしLEDが点灯していないときは、電源ケーブルがコンセントとリアパネルのコネクタに正しく接続されているかを確認して下さい。

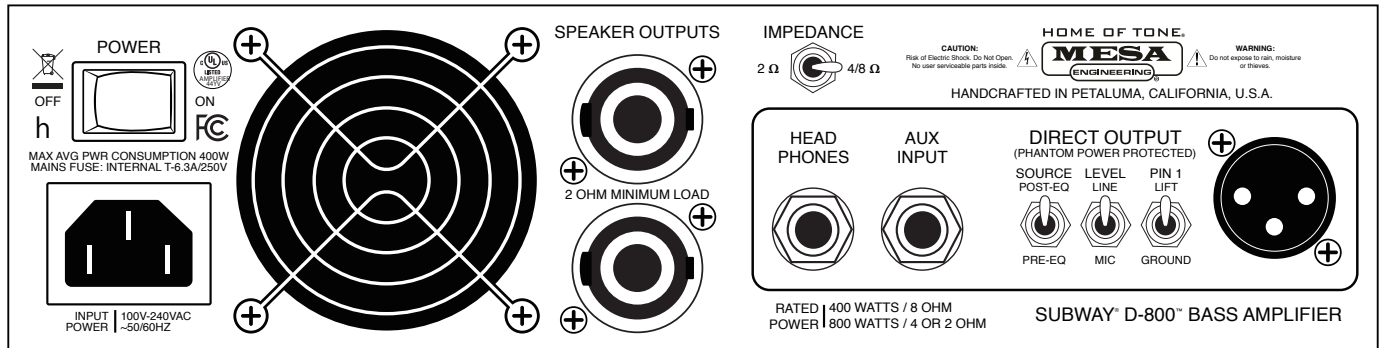
PROTECT LED (プロテクトLED):

このLEDが点灯しているときは、アンプがプロテクト(保護)モードに入っており、外部の問題(スピーカーケーブルやスピーカーのショート)、またはアンプ内部に問題が発生している事を示しています。

LIMIT LED (リミットLED):

このLEDが点灯しているときは、パワーアンプが最大出力付近にあり、アウトプット・チューブのシミュレーションモードがソフトクリップ/リミット状態にあることを示しています。この状態は、よくあるソリッドステートの人工的なクリッピングではなく、チューブアンプのアウトプットステージのオーバードライブサウンドをシミュレートします。この回路には約6dBのレンジがありますが、ドライブするときにはもちろんそれを超えた、緩やかなアウトプットステージのクリッピングが可能になります。また約25%ぐらいの割合でLEDが点滅している場合はアウトプットステージでオーバードライブ域にある事を示しています。

リアパネル (コントロールと機能)



POWER (電源) スイッチ:

アンプの電源のON/OFFを行います。

IEC電源コネクタ:

電源ケーブルを接続します。

注意: 付属の電源ケーブル以外は使用しないで下さい! 付属の電源ケーブル以外を使用した場合のアンプの損傷や事故は保証対象外となります。

SPEAKER OUTPUT (スピーカーアウト):

SUBWAY D-800は、最低2Ωの抵抗(インピーダンスセレクターが2Ω位置にあるとき)で駆動できるので、最大で8Ω×4台、または4Ω×2台のスピーカーキャビネットを接続できます。本機には2つのスピコンNL4-FCコネクタが平行で装備されており、NL-2MPかNL-4MPプラグが接続可能です。NL-2プラグを使用したケーブルは1+/1-端子だけを備えているため常にアンプと正しく接続されますが、NL-4コネクタを使用したケーブルは接続に注意をしなければなりません。標準の2芯ケーブルと同じに、1+から1+、1-から1-へと接続されなければならず、4芯ケーブル時は2+と2-の端子は使用されません。何故スピーカーケーブル端子は、従来の1/4"フォーンコネクタではないのでしょうか?それには重要な理由があり、世界的な安全面の法律改正によるもので、"タッチ-プルーフ・コネクション(電極に触ることが出来ない構造)"が求められており、安全に配慮しているからです。

スピーカーインピーダンス:

全てのスピーカーキャビネットには公称インピーダンス(抵抗)があります。インピーダンスとは、パワーアンプから来る交流の電気信号への抵抗です。抵抗が小さくなると、パワーアンプからの電流が大きくなります。D-800の最低駆動インピーダンスは2Ω(インピーダンスセレクターが2Ω位置の場合)で、公称インピーダンスの合算値が設定された値を下回らない様にしてください。例えば公称インピーダンスの合算が2.7Ω(8Ωキャビ1台と4Ωキャビ1台)で使用する場合は、インピーダンスセレクターは2Ωの位置に設定して下さい。

スピーカーの極性（または位相）：

全てのスピーカーには極性があり、規格に沿って製造・配線され、プラスの直流電圧はスピーカーのプラス端子に、マイナス電圧はスピーカーのマイナス端子に当てられます。一方で一部の市販品（例えば初期のJBLドライバー等）やリペアの失敗（配線間違いやリコーン不良）、またはメーカーが敢えて規格を無視するといった、標準から逸脱したものも存在します（MESA/Boogie製品は規格統一されています）。複数のドライバーやウーハーを搭載したスピーカーやスピーカーキャビネットをペアで使用する際に思ったより音が小さかったりローエンドが出ない場合は、キャビネット内結線や接続の不備が疑われます。もし複数のユニットを持つキャビネットですべてが正常動作していない時は、いずれかのユニットが故障しているか接触不良等が考えられます。また一つのドライバーからは音が消えそうであるのに他からは音が出始めているときは、ユニットが不良か接触不良、またはスピーカーキャビネットの内部配線が間違った接続をされている可能性があります。このように、正しく音が出ないときはあらゆる可能性をチェックして下さい。

HEADPHONE OUTPUT（ヘッドホンアウト）：

本機は1/4"TRS(tip-ring-sleeve)のヘッドホンアウトジャックを備えており、8~32Ω仕様の通常のヘッドホンやIEMイヤホン（インイヤーマニトアイヤホン）に対応しています。ベースプレイヤーがヘッドホンやイヤホンを使用する場合、長時間の使用で耳を傷めることがありますので注意が必要です。尚、このアウトプットにはスピーカーキャビネット・シミュレーター回路が搭載されています。

AUX INPUT（AUXインプット）：

本機は1/4" TRSのAUXインプットジャックを装備しています。このTRSステレオジャックは、MP3プレイヤーやiPhone、またはラップトップPC等の機器のステレオ信号を入力できます。接続ポイントはマスターボリュームコントロールの直前となりますので、楽器と接続機器の各々のボリュームコントロールにて音量バランスの調整を行います。接続されたプレーヤー機器とのマッチングはアンプに内蔵された自動回路で補正されます。

DIRECT OUT（DIアウト）：

本機が市場の他の製品と一線を画す一つの特徴として、スタジオグレードのXLRバランス・ダイレクトアウトを装備しています。このアウトプットは500フィート（約152m）クラスのバランス・アナログ回線にも使用でき、ノイズに強く信頼性の高い、高品質の信号を送り出します。プロオーディオ規準の2番ピン（ホット）、3番ピン（コールド）そして1番ピン（グラウンド）という構成です。世界的によくあるコンソールはこの配線基準となっていますので、本機はお好みのコンソールへ、シームレスなインターフェースとなり得るでしょう。ファンタムパワーが常時供給されているミキサーへも接続可能です。

PRE/POST（プリ/ポスト）DIOUTスイッチ：

このスイッチで、DIRECTアウトで送る際の、信号の取り出し位置を選択できます。PREの位置では、信号はインプット・バッファーから直接出され、ACTIVE/PASSIVEスイッチはPAに送るための信号レベルをより適合するように、動作ゲインを調節します。フロントパネルのMUTEスイッチを使ってアンプをスタンバイ状態にすると、このアウトプットはサイレントチューニングに使用出来ます。このスイッチをPOST位置にすると、信号は4バンドEQの後ろ、マスターボリュームの前になります。通常PAエンジニアはプリEQからの信号を好みます。理由はエンジニアが扱うPAシステムはステージ上の機材や環境とは異なるので、ステージ上では良いサウンドのEQのセッティングになっても、より大きなシステムや観客席ではサウンドアレンジが必要となる場合があるためです。レコーディングでは、エンジニアの目指すサウンドにも依りますが、PREでもPOSTでもどちらでも使えます。アンプをプリアンプとして使用するときは（例として、プロオーディオのパワーアンプやパワードのPAキャビネットに接続する場合）、通常POSTの位置でラインレベルの信号が選択されます（パワードスピーカーがマイクレベルの信号を受け取れない場合に限り）。

DIグラウンドリフトスイッチ：

このスイッチで、XLR DIアウトコネクタの一番ピンから、サーキットのグラウンド/アースを切り離します。バランスアウトは、1番ピンや、コンソールに信号を送る際のシールド接続には影響されません。1番ピンが常にコンソールのマスター・グラウンドバスに繋がっていても、ハムノイズが発生する場合があります。このスイッチの切り替えによって、PAとベースアンプの間に起こるグラウンドループ（ノイズ）は多くの場合解決されるでしょう。

プレイヤー用メモ書き欄：

トラブルシューティング：

もしお使いのアンプが正常に動作しない場合、トラブルの原因がアンプ以外の要因による場合はよくありますが、不具合の状況を正確に見つけ出して解決するために、まずはトラブルシューティングを参考にしてチェックをしてみてください。

症状1：

音が出ない

→電源LEDや、他のLEDは点灯していますか？

LEDが点灯していない場合、次の順番でチェックしてみてください：

1. 電源をチェックします(電源ケーブルに損傷が無いか、ソケットにしっかり差さっているかをチェックして下さい)
2. 誰かがアンプからケーブルを抜いていないか、またはあなたが見ていない内に電源をOFFにしていないかをチェックします(もしそうなら、ギタープレイヤーに文句を言って、電源をONにして演奏を開始して下さい)
3. もし問題を解決できない場合は、アンプが故障している可能性がありますので、お近くのMESA/Boogie製品を取り扱っている楽器店に相談して下さい

LEDが点灯している場合、次の順番で原因をチェックしてみてください：

1. MUTEスイッチがONになっている(MUTEスイッチをOFFにします)
2. INPUTまたはMASTERコントロールの設定がゼロになっている(設定を上げます)
3. スピーカーケーブルまたはスピーカーが不良である(別の品質の高いスピーカーケーブルやスピーカーを試して下さい)
4. ベースまたは楽器用ケーブルが不良である(別の品質の高いベースまたは楽器用ケーブルを試して下さい)
5. アンプ本体が実際に不良である場合、お近くのMESA/Boogie製品を取り扱っている楽器店に相談して下さい

症状2：

出力される音が歪んでいる

1. アクティブ仕様のベースに搭載されているプリアンプの電池が不良または消耗しているため音が歪んでいる(電池を交換して下さい)
2. 出力の高いベースを使用する場合、アンプがパッシブモードになっているとプリアンプがオーバードライブすることがあります(アクティブモードに切り替えて下さい)
3. ケーブル類が接触不良である(楽器用ケーブルやパッチケーブル、スピコンプラグのネジが緩んでいる際に起こります)
4. スピーカーキャビネット内部のスピーカーユニットが壊れている(品質の高いスピーカーキャビネットを試すか、必要に応じてスピーカーを修理します)
5. アンプ本体が実際に不良である場合、お近くのMESA/Boogie製品を取り扱っている楽器店に相談して下さい

症状3：

ポップノイズが発生する

1. 演奏中、特に1本の弦を弾くとポップノイズが発生する(弦とピックアップのポールピースの間隔が十分にあるかを中心に、使用するベースギターのセッティングをチェックして下さい)
2. ベースを演奏せずにただ持っているだけでポップノイズが発生する(乾燥した環境では、静電気によるポップノイズが起こることがあります。静電気を防止するには、帯電防止マットや加湿器を試してみてください)

症状4：

低周波のハムノイズが発生する

1. 楽器用ケーブルまたはベースギター内部の回路が不良である(アンプから楽器用ケーブルを抜き、もしハムノイズが消えるようであれば、ノイズはアンプ外部からのものということになります。品質の高い楽器用ケーブルや他のベースを試してみてください)
2. 電源のアースが取れていない(アースピンをチェックします。どこに問題があるのか確認するために、必要であれば電気技術者に相談して下さい)
3. ベースギターの位置や向きによってノイズが出る。向きによってハムノイズの大きさが変わる(演奏する際の位置や場所を変更して下さい。浮遊磁場である可能性があります)

症状5：

高周波のヒスノイズが発生する

1. アンプから楽器用ケーブルを抜き、もしハムノイズが消えるようであれば、ノイズはアンプ外部からのものということになります(ベースのアクティブ・プリアンプのトレブルが最大になっている、電池の不良または劣化、ベースのプリアンプの不良等が考えられます)
2. ネオンやライトのようなものが近くにあるときに、電波妨害(俗に言う"ホワイトノイズ")がピックアップに入り込むことがあります(その場合は、ノイズが消えるかライトを消してみして下さい。もし消えたら、ライトの二次回路のまたは真空管のアーク放電や、楽器のピックアップへの電波妨害が考えられます)
3. 電源側のアースが取れていない(回路や、アースピンをチェックします。どこに問題があるのか確認するために、必要であれば電気技術者に相談して下さい)
4. 静かな環境でツイーターの設定が最大になっている(特に低域のドライバーでツイーターの設定音量を上げるとツイーターの感度が非常に高くなりますので、設定を下げる必要があります)

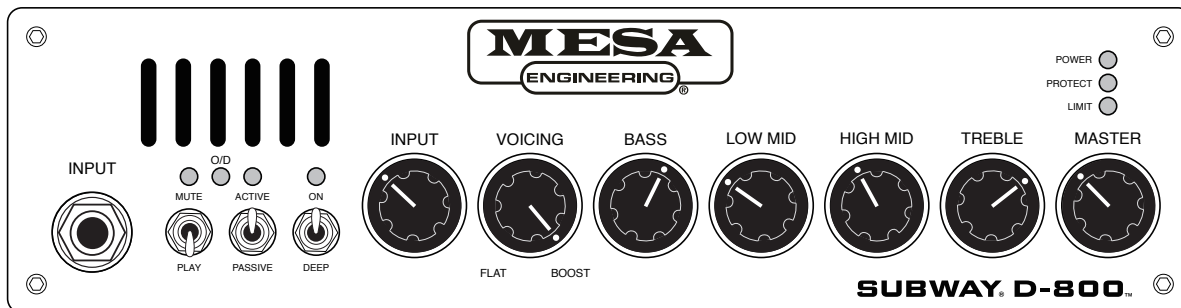
症状6：

PROTECT(プロテクト)LEDが点灯する

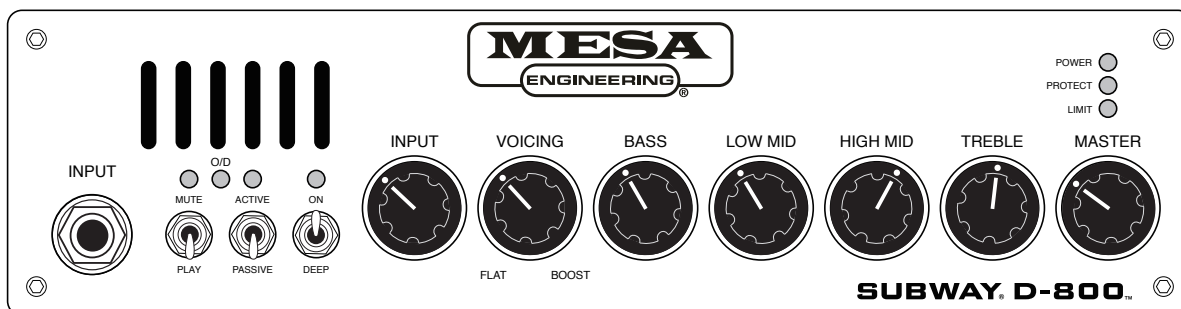
1. もしアンプが長い間プロテクト状態になっている場合は、電源ケーブル以外のケーブルを全て抜き取り、スピーカーケーブルとキャビネットを接続して下さい。アンプがすぐにプロテクト状態になるのであれば、原因としてスピーカーキャビネットのクロスオーバーやスピーカーユニットの不良や破損等が考えられます。また他のスピーカーキャビネットを試してみて症状が変わらなければお近くのMESA/Boogie製品を取り扱う楽器店に相談して下さい。
2. 演奏中に音量を低めに抑えた際に、保護回路が働く(スピーカーケーブルが断線している可能性がありますので、高品質なスピーカーケーブルを試してみてください)
3. 演奏中の音量が高い場合に、保護回路が働く(スピーカーの合算抵抗がアンプのインピーダンスセレクターの設定値以下になっていないか確認します。複数のスピーカーキャビネットを使用した際の組み合わせ間違い、修理されたスピーカーキャビネットに貼られたステッカーの抵抗値間違い、または抵抗値の記載がない改造スピーカーや、ボイスコイルが温まる際にボイスコイルがショートするような不良ドライバー等が原因と考えられます)
4. コンセントなど、電源からの供給電圧が下がり過ぎる(電源延長ケーブルを使用していた場合は除去する。改善されない場合は電気技術者へ相談して下さい)

サンプルセッティング

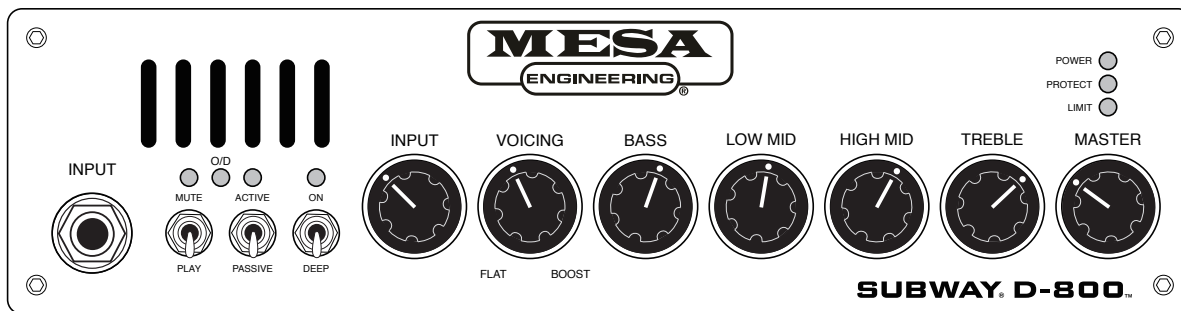
CLASSIC SLAP



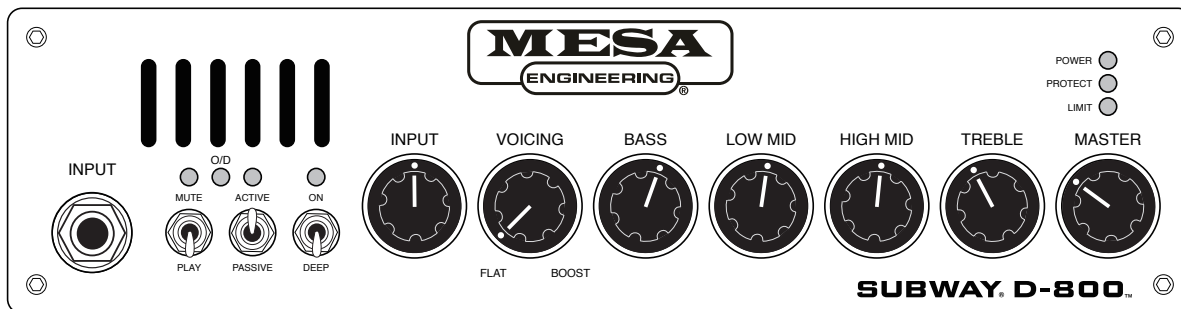
ROCK AUTHORITY



J BASS FUNK



FRETLESS



SUBWAY® D-800™

Specifications

Output Power Rating: 400 watts rms @ 8 ohms, 10% THD (includes preamp O/D THD) [note 1]
800 watts rms @ 4 ohms, 10% THD (includes preamp O/D THD) [note 1]
800 watts rms @ 2 ohms, 10% THD (includes preamp O/D THD) [note 1, 4]

Signal to Noise Ratio: -74dB (20-20kHz, unweighted)

Maximum Available Gain: 79dB, (EQ controls flat, passive mode)

Equalization: Bass: +14dB/-14dB @ 40Hz [note 2]
Low Mid: +14dB/-14dB @ 200Hz
High Mid: +14dB/-14dB @ 480Hz
Treble: +11dB/-14dB @ 4kHz [note 2]

Power Requirements: 100-120/220-240 VAC, 50/60Hz, 250W, auto-ranging power supply

Size: 10.59" (269mm) wide x 11.12" (282mm) deep x 3.04" (77mm) high [note 3]

Weight approx. 5.5 lbs (2.49 kg)

[note 1]: area under the curve, factoring preamp harmonics management.

[note 2]: measured approx. 1 octave from knee

[note 3]: chassis dimensions include controls, handle and feet

[note 4]: impedance selector switch set to 2 ohm position

商品改良のため、仕様や外観は予告なく変更されることがあります。

The Spirit of Art in Technology™



ギブソン・ブランズ・ジャパン株式会社

Email: service.japan@gibson.com

「@gibson.com」からのメールを受信できるよう設定をお願いいたします

お電話でのお問い合わせ窓口：0120-189433（通話料無料）

受付時間 9:30 - 17:00（土、日、祝日、年末年始を除く）